文学的文章　表現・描写の捉え方

（夏休み、「私」の家に毎年の恒例行事として親戚が泊まりに来ました。洸兄とその姉のマリさんは、いつものように「私」やチエミの面倒を見てくれていましたが、高校生になっていたマリさんは、宿題をするという口実で一足先に帰ってしまいました。次の文章は洸兄が帰りの車に乗り込んだ場面です。）

洸兄とおばちゃんが手を振る、車の窓が遠ざかる。砂利道から出て、学校とは逆のほうへ、長い長い一本道を車は行く。次の集落に入るまで、ずっと車は見えていて、私たちは手を振り続ける。洸兄たちも、私たちが消えるまでえんえん手を振っている。

【赤い屋根の家の陰に、車がすっと隠れてしまうと、じいちゃんもばあちゃんもフーッと大きくひと息ついた。「終わった終わった」などと腰を伸ばしながら家のほうへ引っ込んでいく。いつもなら私とチエミもすぐそれに続くのだけれど、①チエミはうつむいて動かなかった。私もそこでじっとしていた。】

「ねえちゃん」

チエミがふいに顔を上げた。②ぎらぎらと濡れた瞳が、まっすぐに私を見た。

「マリちゃん、もう来ないよね」

来ないだろうね、とあやうく返しそうになるのを、ぎりぎりのところで呑み込む。

「わかんないよ。来年になってみなくちゃわかんないよ」

私は腰をかがめて、チエミの両手をにぎった。小さな手はとても熱い。

チエミがぼろんと大粒の涙をこぼして、思わずつられそうになるのをこらえた。うつむいたら足元で、蝉の死骸に蟻がたかっていた。蝉は、夏の陽に焼かれきってしまったかのように乾いていた。

（豊島ミホ『夜の朝顔』集英社　による）

表現・描写の特徴

文章は、表現や描写の仕方にさまざまな特徴がある。

●**文体**（文章の様式、スタイル）
・文末…常体「～だ。～である。」（硬い印象）
　　　　敬体「～です。～ます。」（やさしく語りかけるような印象）
・語句…和語（やわらかい語感）、漢語（硬い語感）、
　　　　外来語（新鮮で軽快な語感）

●**語り手**…誰の視点で描かれるか。
・一人称…ある人物（「私」など）の視点から語る。
・三人称…第三者の視点から語る。

●**象徴**や**情景描写**
象徴的なものや情景を通して人物の心情が描写されることがある。

●**表現技法**
比喩（直喩・隠喩・擬人法）、体言止め、倒置、対句、反復、省略などの表現技法を用いて印象を強める。

例題

【　】の箇所（かしょ）の表現の特徴を正しく述べたものを選びなさい。

ア　「私」の視点から、登場人物それぞれのしぐさや様子を描いている。

イ　文末を敬体にすることで、心情をやさしく語りかけるように描いている。

ウ　「私」の祖父母の視点から、親戚が帰ってほっとひと息つく家族の様子を描いている。

〔　　〕

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「チエミはうつむいて動かなかった」とあるが、この表現について正しく述べたものを選びなさい。

ア　チエミのつらい心情を、チエミの様子を通して描いている。

イ　「私」とチエミのすれちがいを、しぐさによって描いている。

ウ　家族が感じた安堵（あんど）を、時間がとまったかのように描いている。

〔　　〕

(2)　――線②「ぎらぎらと濡れた瞳」は何を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア　チエミの子どもらしい無邪気（むじゃき）な様子。

イ　チエミに真夏の日差しが照りつける様子。

ウ　チエミが涙を浮（う）かべている様子。

〔　　〕